

### 3.2.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

#### (1) 動物の生息の状況

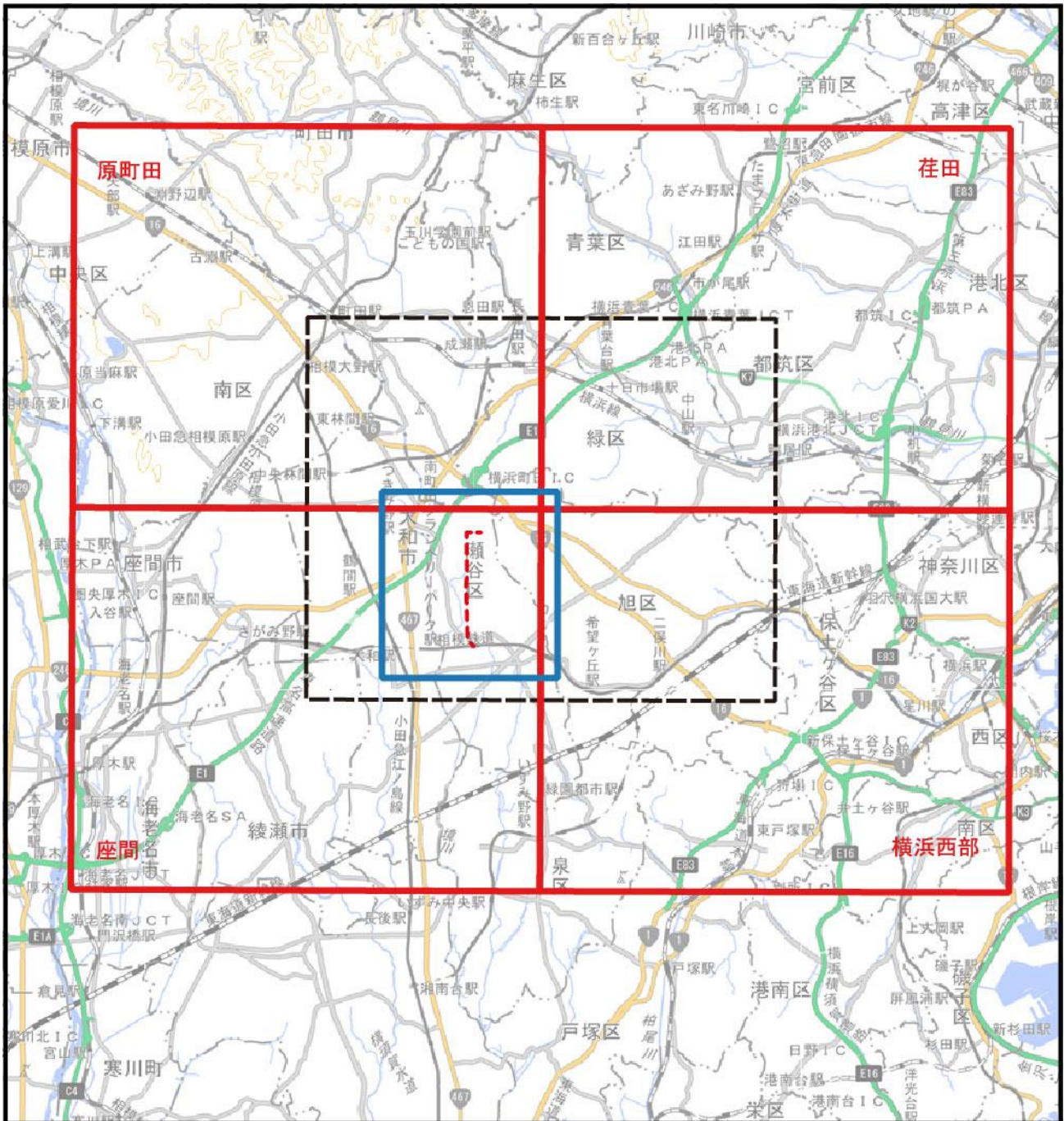
動物の生息状況は、調査区域及びその周辺を対象に、文献その他の資料により整理しました。文献その他の資料による調査範囲は、表 3.2-16 及び図 3.2-22 のとおりです。

表 3.2-16 文献その他の資料による調査範囲（動物）

文献その他の資料	調査範囲
「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館 平成 18 年 7 月）	横浜市瀬谷区、旭区、緑区、大和市で確認された種を対象としました。
「かながわの鳥と獣」（神奈川県 平成 4 年 3 月）	調査区域が含まれる 5 km メッシュで確認された種を対象としました。
「かながわの鳥図鑑」（神奈川県 平成 4 年 3 月）	横浜市瀬谷区、旭区、緑区、大和市で確認された種を対象としました。
「神奈川県内河川の魚類」（神奈川県環境科学センター 平成 26 年 3 月）	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「神奈川県内河川の底生動物Ⅱ」（神奈川県環境科学センター 平成 26 年 3 月）	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「横浜の川と海の生物（第 14 報・河川編）」（横浜市環境科学研究所 平成 28 年 3 月）	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「大和市の脊椎動物」（大和市教育委員会 平成 2 年 3 月）	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「大和市の昆虫」（大和市教育委員会 平成 3 年 3 月）	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「大和市史 8（上）別編自然」（大和市 平成 8 年 9 月）	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「1993 年（平成 5 年）町田の野鳥」（町田野鳥の会 平成 6 年 10 月）	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「1998 年度（平成 10 年度）町田の野鳥」（町田野鳥の会 平成 12 年 2 月）	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「2003 年度（平成 15 年度）町田の野鳥 3」（町田野鳥の会 平成 17 年 3 月）	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「横浜のホタル生息地（1983 年度版）」（横浜市公害研究所 昭和 59 年 3 月）	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「生物多様性情報システム—基礎調査データベース検索—（第 2 回～第 6 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書）」（環境省ホームページ 令和 2 年 5 月閲覧）	調査区域が含まれる 2 次メッシュとして、「座間」、「横浜西部」、「荏田」、「原町田」の 4 メッシュで確認された種を対象としました。

なお、上記以外に「環境アセスメントデータベース（EADAS）」（環境省 令和 2 年 5 月閲覧）により、調査区域及びその周辺における以下の情報を収集しました。

コウモリ洞分布、コウモリ生息情報、イヌワシ・クマタカ生息分布、オオワシ・オジロワシ生息分布、渡りをするタカ類集結地、ガン類・ハクチョウ類の主要な集結地、鳥類の渡りのルート、重要種（イヌワシ、チュウヒ、サンカノゴイ、オオヨシゴイ、オジロワシ、クマタカ、オオワシ、タンチョウ、コウノトリ）の分布状況



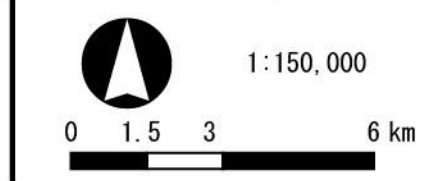
凡例

--- 対象事業実施区域

□ 調査区域

□ 調査対象2次メッシュ

□ 調査対象5kmメッシュ



資料：「自然環境調査 Web-GIS」（環境省 自然環境局 生物多様性センターホームページ 令和2年5月閲覧）

図 3.2-22 文献その他の資料による調査範囲

① 動物相の概要

動物の生息状況は、当該地域の自然特性を勘案し、調査区域及びその周辺の動物相の概要を表 3.2-17 のとおり整理しました。哺乳類 14 種、鳥類 149 種、爬虫類 11 種、両生類 10 種、昆虫类等 823 種、魚類 47 種、陸産貝類 32 種及び底生動物 99 種が確認されています。

表 3.2-17(1) 動物相の状況

分類	文献その他の資料名	確認種数	主な確認種
哺乳類	「かながわの鳥と獣」(神奈川県 平成4年3月)	2	アズマモグラ、アブラコウモリ、タヌキ、キツネ、ノイヌ、ノネコ、テン、イタチ、アナグマ、ハクビシン、タイワンリス、アカネズミ、ドブネズミ、ノウサギ (14種)
	「大和市の脊椎動物」(大和市教育委員会 平成2年3月)	4	
	「大和市史8(上)別編自然」(大和市 平成8年9月)	1	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和2年5月閲覧)	11	
鳥類	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月)	2	キジ、カルガモ、キジバト、コサギ、コチドリ、キアシシギ、トビ、アオバズク、カワセミ、コゲラ、モズ、オナガ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、オオヨシキリ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ等 (149種)
	「かながわの鳥と獣」(神奈川県 平成4年3月)	55	
	「かながわの鳥図鑑」(神奈川県 平成4年3月)	88	
	「大和市の脊椎動物」(大和市教育委員会 平成2年3月)	55	
	「大和市史8(上)別編自然」(大和市 平成8年9月)	23	
	「1993年(平成5年)町田の野鳥」(町田野鳥の会 平成6年10月)	85	
	「1998年度(平成10年度)町田の野鳥」(町田野鳥の会 平成12年2月)	77	
	「2003年度(平成15年度)町田の野鳥3」(町田野鳥の会 平成17年3月)	38	
「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和2年5月閲覧)	127		

表 3. 2-17(2) 動物相の状況

分類	文献その他の資料名	確認種数	主な確認種
爬虫類	「大和市の脊椎動物」(大和市教育委員会 平成2年3月)	8	クサガメ、ミシシippアカミミガメ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、タカチホヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、シロマダラ、ヤマカガシ、ニホンマムシ (11種)
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和2年5月閲覧)	8	
両生類	「大和市の脊椎動物」(大和市教育委員会 平成2年3月)	7	アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ナガレタゴガエル、ニホンアカガエル、アカガエル属、トウキョウダルマガエル、ウシガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル (10種)
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和2年5月閲覧)	9	
昆虫類等	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月)	7	ジグモ、オナガグモ、ジョロウグモ、アシナガグモ、クロケシグモ、コクサグモ、ウヅキコモリグモ、ハナグモ、アリグモ、アキアカネ、オオカマキリ、エンマコオロギ、オンブバッタ、アブラゼミ、マルカメムシ、マイマイカブリ、コクワガタ、カナブン、ウバタマムシ、ナミテントウ、シロスジカミキリ、ヒメクロオトシブミ、オオスズメバチ、アカイラガ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ヒメアカタテハ、コシロシタバ等 (823種)
	「大和市の昆虫」(大和市教育委員会 平成3年3月)	659	
	「大和市史8(上)別編自然」(大和市 平成8年9月)	80	
	「横浜のホタル生息地(1983年度版)」(横浜市公害研究所 昭和59年3月)	2	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和2年5月閲覧)	160	
魚類	「神奈川県内河川の魚類」(神奈川県環境科学センター 平成26年3月)	13	コイ、ギンブナ、オイカワ、アブラハヤ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ホトケドジョウ、ナマズ、ミナミメダカ、オオヨシノボリ、クロダハゼ、旧トウヨシノボリ類等 (47種)
	「横浜の川と海の生物(第14報・河川編)」(横浜市環境科学研究所 平成28年3月)	14	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和2年5月閲覧)	43	
陸産貝類	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和2年5月閲覧)	32	サドヤマトガイ、ケシガイ、ヒラマキミズマイマイ、ナミコギセル、オカチョウジガイ、ナメクジ、チャコウラナメクジ、ニッポンマイマイ、オナジマイマイ等 (32種)
底生動物	「神奈川県内河川の底生動物Ⅱ」(神奈川県環境科学センター 平成26年3月)	65	アメリカツノウズムシ、マルタニシ、イトミミズ属、シマイシビル、ミズムシ、ヒラテテナガエビ、アメリカザリガニ、サホコカゲロウ、ハグロトンボ、コオニヤンマ、アメンボ、コガタシマトビケラ、セスジユスリカ等 (99種)
	「横浜の川と海の生物(第14報・河川編)」(横浜市環境科学研究所 平成28年3月)	73	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和2年5月閲覧)	9	

## ② 動物の重要な種

動物の重要な種は、「① 動物相の概要」の文献その他の資料で確認された種について、表 3.2-18 に示す法令や規制等の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から選定しました。

その結果、重要な種は表 3.2-19 のとおり、哺乳類 2 種、鳥類 68 種、爬虫類 5 種、両生類 8 種、昆虫类等 55 種、魚類 18 種、陸産貝類 5 種及び底生動物 7 種が確認されています。

「環境アセスメントデータベース (EADAS)」(環境省ホームページ 令和 2 年 5 月閲覧) によれば、図 3.2-34 に示すとおり、調査区域にはコウモリ洞の分布やコウモリ生息情報はありませんでした。図 3.2-24 に示すとおり、調査区域の北端(対象事業実施区域外)を含むメッシュにて、イヌワシの一時滞在の記録がありますが、生息確認や生息推定はなされていません。クマタカ、オオワシ、オジロワシの生息分布や渡りをするタカ類集結地、ガン類・ハクチョウ類の主要な集結地はありませんでした。図 3.2-25 及び図 3.2-26 に示すとおり、調査区域は、オオハクチョウ、コハクチョウ、ハクチョウ類、ガン類、マガン、亜種オオヒシクイ、亜種ヒシクイ、ツル類、海ワシ類、アカハラダカ、サンバ、ノスリ、ハチクマ、その他猛禽類の渡りのルートになっていません。

表 3.2-18(1) 動物の重要な種の選定基準

選定基準		文献その他の資料
①	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月法律第 214 号)、「神奈川県文化財保護条例」(昭和 30 年 4 月神奈川県条例第 13 号)、「東京都文化財保護条例」(昭和 51 年 3 月東京都条例第 25 号)、「横浜市文化財保護条例」(昭和 62 年 12 月横浜市条例 53 号)、「大和市文化財保護条例」(昭和 38 年 10 月大和市条例第 25 号)及び「町田市文化財保護条例」(昭和 52 年 4 月町田市条例第 30 号)に基づく天然記念物 国特：特別天然記念物 天然：天然記念物 県天：神奈川県天然記念物 都天：東京都天然記念物 横浜天：横浜市天然記念物 大和天：大和市天然記念物 町田天：町田市天然記念物	「国指定文化財等データベース」(文化庁ホームページ 令和 2 年 5 月閲覧)ほか各自治体ホームページ
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月法律第 75 号)に基づく国内希少野生動植物等 国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 特定：特定国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年 2 月政令第 17 号)

表 3.2-18(2) 動物の重要な種の選定基準

選定基準		文献その他の資料	
③	<p>「環境省レッドリスト 2020」(環境省 令和元年 3月)の掲載種</p>	<p>EX: 絶滅・・・我が国ではすでに絶滅したと考えられる種  EW: 野生絶滅・・・飼育・栽培下でのみ存続している種  CR+EN: 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの  CR: 絶滅危惧 IA 類・・・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの  EN: 絶滅危惧 IB 類・・・IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの  VU: 絶滅危惧 II 類・・・絶滅の危険が増大している種  NT: 準絶滅危惧・・・現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種  DD: 情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種  LP: 絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの</p>	<p>「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(環境省ホームページ 令和 2 年 5 月閲覧)</p>
④	<p>「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成 18 年 7 月)</p>	<p>EX: 絶滅・・・すでに絶滅したと考えられる種  EW: 野生絶滅・・・飼育・栽培下でのみ存続している種  CR+EN: 絶滅危惧 I 類・・・絶滅の危機に瀕している種  CR: 絶滅危惧 IA 類・・・ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種  EN: 絶滅危惧 IB 類・・・IA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種  VU: 絶滅危惧 II 類・・・絶滅の危険が増大している種  NT: 準絶滅危惧・・・現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種  減少: 減少種・・・かつては県内に広く分布していたと考えられる種のうち、生息地あるいは生息個体数が著しく減少している種  希少: 希少種・・・生息地が狭域であるなど生息環境が脆弱な種のうち、現在は個体数をとくに減少させていないが、生息地での環境悪化によっては絶滅が危惧される種  要注: 要注意種・・・前回、減少種または希少種と判定され、かつては広く分布していたのに、生息地または生息個体数が明らかに減少傾向にある種  注目: 注目種・・・生息環境が特殊なものうち、県内における衰退はめだたないが、環境悪化が生じた際には絶滅が危惧される種  DD: 情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種  不明: 不明種・・・過去に不確実な記録だけが残されている種  LP: 絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高い個体群</p>	<p>「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成 18 年 7 月)</p>

表 3.2-19(1) 文献その他の資料による動物の重要な種（哺乳類）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	ネコ	イヌ	キツネ				NT
2		イタチ	イタチ				NT
計	1目	2科	2種	0種	0種	0種	2種

注1：種名及び配列は原則として、「種の多様性調査（動物分布調査）対象種一覧」（環境省 平成14年）に準拠しました。

注2：選定基準は表 3.2-18（p.3-58～59）参照。

表 3.2-19(2) 文献その他の資料による動物の重要な種（鳥類1）

No.	目和名	科和名	種和名	選定基準				
				①	②	③	④	
1	キジ	キジ	ウズラ			VU	VU <sup>b</sup>	
2			ヤマドリ				VU <sup>a,b</sup>	
3	カモ	カモ	アカツクシガモ			DD		
4			オシドリ			DD	希少 <sup>a</sup> 、減少 <sup>b</sup>	
5			トモエガモ			VU	希少 <sup>b</sup>	
6	ハト	ハト	アオバト				注目 <sup>a,b</sup>	
7	ペリカン	サギ	ヨシゴイ			NT	VU <sup>a</sup>	
8			ミゾゴイ			VU	CR+EN <sup>a</sup>	
9			ササゴイ				VU <sup>a</sup>	
10			チュウサギ			NT		
11	ツル	クイナ	ヒクイナ			NT	CR+EN <sup>a</sup>	
12	カッコウ	カッコウ	カッコウ				VU <sup>a</sup>	
13	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	VU <sup>a</sup>	
14	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ				減少 <sup>a</sup>	
15	チドリ	チドリ	タゲリ				VU <sup>b</sup>	
16			ダイゼン				減少 <sup>b</sup>	
17			イカルチドリ				NT <sup>a</sup> 、注目 <sup>b</sup>	
18			コチドリ				注目 <sup>a</sup>	
19		シギ		ヤマシギ				希少 <sup>b</sup>
20				タシギ				注目 <sup>b</sup>
21				クサシギ				NT <sup>b</sup>
22				キアシシギ				VU <sup>b</sup>
23				イソシギ				希少 <sup>a</sup> 、注目 <sup>b</sup>
24				ハマシギ			NT	VU <sup>b</sup>
25				タマシギ	タマシギ			VU
26		カモメ	コアジサシ			VU	CR+EN <sup>a</sup>	
27		タカ	タカ	ツミ				VU <sup>a</sup> 、希少 <sup>b</sup>
28				ハイタカ			NT	DD <sup>a</sup> 、希少 <sup>b</sup>
29	オオタカ					NT	VU <sup>a</sup> 、希少 <sup>b</sup>	
30	サシバ					VU	CR+EN <sup>a</sup>	
31	ノスリ						VU <sup>a</sup> 、希少 <sup>b</sup>	
32	フクロウ	フクロウ	フクロウ				NT <sup>a</sup>	
33			アオバズク				VU <sup>a</sup>	
34	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン				VU <sup>a</sup>	
35		ブッポウソウ	ブッポウソウ			EN	CR+EN <sup>a</sup>	
36	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		国内	VU	CR+EN <sup>a</sup> 、希少 <sup>b</sup>	
37	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ			VU	VU <sup>a</sup>	
38		カササギヒタキ	サンコウチョウ				VU <sup>a</sup>	
39		モズ		チゴモズ			CR	CR+EN <sup>a</sup>
40				モズ				減少 <sup>a</sup>

表 3.2-19(3) 文献その他の資料による動物の重要な種（鳥類2）

No.	目和名	科和名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
41	スズメ	キクイタダキ	キクイタダキ				希少 <sup>a</sup>
42		シジュウカラ	コガラ				VU <sup>a</sup> 、NT <sup>b</sup>
43		ヒバリ	ヒバリ				減少 <sup>a</sup>
44		ツバメ	ツバメ				減少 <sup>a</sup>
45			コシアカツバメ				減少 <sup>a</sup>
46		ウグイス	ヤブサメ				NT <sup>a</sup>
47		ムシクイ	メボソムシクイ				VU <sup>a</sup>
48			エゾムシクイ				NT <sup>a</sup>
49			センダイムシクイ				NT <sup>a</sup>
50		センニュウ	オオセッカ		国内	EN	
51		ヨシキリ	オオヨシキリ				VU <sup>a</sup>
52		セッカ	セッカ				減少 <sup>a, b</sup>
53		カワガラス	カワガラス				減少 <sup>a, b</sup>
54		ヒタキ	トラツグミ				減少 <sup>a</sup>
55			クロツグミ				VU <sup>a</sup>
56			アカハラ				減少 <sup>a</sup>
57			ルリビタキ				VU <sup>a</sup>
58			コサメビタキ				CR+EN <sup>a</sup>
59			キビタキ				減少 <sup>a</sup>
60			オオルリ				NT <sup>a</sup>
61			セキレイ	キセキレイ			
62		セグロセキレイ					減少 <sup>a</sup>
63		ビンズイ					VU <sup>a</sup>
64		アトリ	カワラヒワ				減少 <sup>a</sup>
65		ホオジロ	ホオアカ				CR+EN <sup>a</sup>
66			アオジ				VU <sup>a</sup>
67			クロジ				CR+EN <sup>a</sup> 、減少 <sup>b</sup>
68			オオジュリン				VU <sup>b</sup>
計	14 目	34 科	68 種	0 種	2 種	20 種	65 種

注1：種名及び配列は原則として、「日本鳥類目録改訂第7版」（日本鳥学会 平成24年9月）に準拠しました。

注2：選定基準は表 3.2-18 (p. 3-58~59) 参照。

注3：④「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月）において、鳥類は、繁殖期または非繁殖期ごとにカテゴリーが設定されています。繁殖期及び非繁殖期の区分は以下のとおりです。

a：繁殖期、b：非繁殖期

表 3.2-19(4) 文献その他の資料による動物の重要な種（爬虫類）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ				要注
2		ナミヘビ	アオダイショウ				要注
3			シマヘビ				要注
4			ヤマカガシ				要注
5		クサリヘビ	ニホンマムシ				要注
計	1 目	3 科	5 種	0 種	0 種	0 種	5 種

注1：種名及び配列は原則として、「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（日本爬虫両棲類学会 令和2年3月）に準拠しました。

注2：選定基準は表 3.2-18 (p. 3-58~59) 参照。



表 3. 2-19 (5) 文献その他の資料による動物の重要な種（両生類）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	
1	有尾	イモリ	アカハライモリ			NT	CR+EN	
2	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル				要注	
3			アカガエル	ナガレタゴガエル				希少
4				ニホンアカガエル				VU
5				ツチガエル				要注
6			アオガエル	トウキョウダルマガエル			NT	VU
7		シュレーゲルアオガエル					要注	
8		モリアオガエル					要注	
計		2目	4科	8種	0種	0種	2種	8種

注1：種名及び配列は原則として、「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（日本爬虫両棲類学会 令和2年3月）に準拠しました。

注2：選定基準は表 3. 2-18 (p. 3-58～59) 参照。

表 3. 2-19 (6) 文献その他の資料による動物の重要な種（昆虫类等 1）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	トンボ	イトトンボ	クロイトトンボ				要注
2			セスジイトトンボ				要注
3			キイトトンボ				EN
4			ベニイトトンボ			NT	CR
5			モートンイトトンボ			NT	EN
6		モノサシトンボ	モノサシトンボ				NT
7		アオイトトンボ	オツネントンボ				VU
8		カワトンボ	ハグロトンボ				要注
9		サナエトンボ	ヤマサナエ				要注
10			キイロサナエ			NT	CR
11			コサナエ				EN
12		ヤンマ	カトリヤンマ				NT
13			サラサヤンマ				EN
14		エゾトンボ	コヤマトンボ				NT
15			タカネトンボ				要注
16	トンボ	トンボ	コフキトンボ				要注
17			シオヤトンボ				要注
18			チョウトンボ				EN
19			ナツアカネ				要注
20			マユタテアカネ				要注
21			マイコアカネ				DD
22			ヒメアカネ				要注
23			ミヤマアカネ				NT
24			リスアカネ				要注
25	バッタ	クツワムシ	クツワムシ				要注
26		キリギリス	ヒガシキリギリス				要注
27	カメムシ	セミ	ハルゼミ				要注
28		アメンボ	オオアメンボ				NT
29		コオイムシ	コオイムシ			NT	EN
30			タガメ		国内	VU	EX
31	コウチュウ	ハンミョウ	ホソハンミョウ			VU	CR+EN
32		ゲンゴロウ	ゲンゴロウ			VU	EX
33		ガムシ	コガムシ			DD	NT
34			ガムシ			NT	CR

表 3.2-19(7) 文献その他の資料による動物の重要な種（昆虫類等 2）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
35	コウチュウ	クワガタムシ	ミヤマクワガタ				要注
36		タマムシ	ウバタマムシ				NT
37		コメツキムシ	ウバタマコメツキ				NT
38		ホタル	ヘイケボタル				NT
39		カミキリムシ	ムネアカクロハナカミキリ				NT
40			マルクビケマダラカミキリ				NT
41			トラフカミキリ				要注
42			シロスジカミキリ				要注
43			ネジロカミキリ				NT
44		チョウ	ミノガ	オオミノガ			
45	セセリチョウ		ホソバセセリ				VU
46			ギンイチモンジセセリ			NT	NT
47			ミヤマチャバネセセリ				要注
48			オオチャバネセセリ				VU
49	シロチョウ		ヒメシロチョウ			EN	EN
50	シジミチョウ		ミドリシジミ				NT
51			クロシジミ			EN	EX
52			シルビアシジミ			EN	CR
53	タテハチョウ		スミナガシ本土亜種				要注
54			オオムラサキ			NT	NT
55	ヤガ	コシロシタバ			NT		
計	5 目	27 科	55 種	0 種	1 種	15 種	54 種

注 1：種名及び配列は原則として、「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」（環境庁 平成 7 年 4 月）に準拠しましたが、その後、和名や学名等が変更された種については、最新の文献や図鑑等に基づいて修正しました。

注 2：選定基準は表 3.2-18（p. 3-58～59）参照。

表 3.2-19(8) 文献その他の資料による動物の重要な種（魚類）

No.	目名	科名	種名	選定基準					
				①	②	③	④		
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類			VU	EN		
2	コイ	コイ	コイ				DD		
-			ゲンゴロウブナ			(EN) <sup>注3</sup>			
3			キンブナ			VU	EN		
4			ハス			VU			
5			アブラハヤ					NT	
6			ウグイ					NT	
7			ゼゼラ			VU			
8			カマツカ					NT	
9			ニゴイ					VU	
-			スゴモロコ				(VU) <sup>注4</sup>		
10			ドジョウ	ドジョウ	ドジョウ			NT	
11					シマドジョウ				NT
12	ホトケドジョウ					EN	EN		
13	ナマズ	ナマズ	ナマズ				注目		
14	サケ	サケ	サクラマス（ヤマメ）			NT	CR		
15	ダツ	メダカ	ミナミメダカ			VU	CR		
16	カサゴ	カジカ	カジカ			NT	VU		
17	スズキ	ハゼ	ボウズハゼ				NT		
18			オオヨシノボリ					NT	
計	7目	8科	18種	0種	0種	9種	15種		

注1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 平成30年11月）に準拠しました。

注2：選定基準は表3.2-18（p.3-58～59）参照。

注3：ゲンゴロウブナは琵琶湖水系固有種であり、移入種である可能性が高いことから、括弧を付けた表記とし、重要な種には計上しないこととしました。

注4：スゴモロコは琵琶湖水系固有種であり、移入種である可能性が高いことから、括弧を付けた表記とし、重要な種には計上しないこととしました。

表 3.2-19(9) 文献その他の資料による動物の重要な種（陸産貝類）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	新生腹足	ヤマタニシ	サドヤマトガイ			NT	
2		エゾマメタニシ	イナバマメタニシ			VU	
3	汎有肺	ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ			DD	
4			ヒラマキガイモドキ			NT	
5		オカモノアラガイ	コウフオカモノアラガイ			VU	
計	2目	4科	5種	0種	0種	5種	0種

注1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 平成30年11月）に準拠しました。

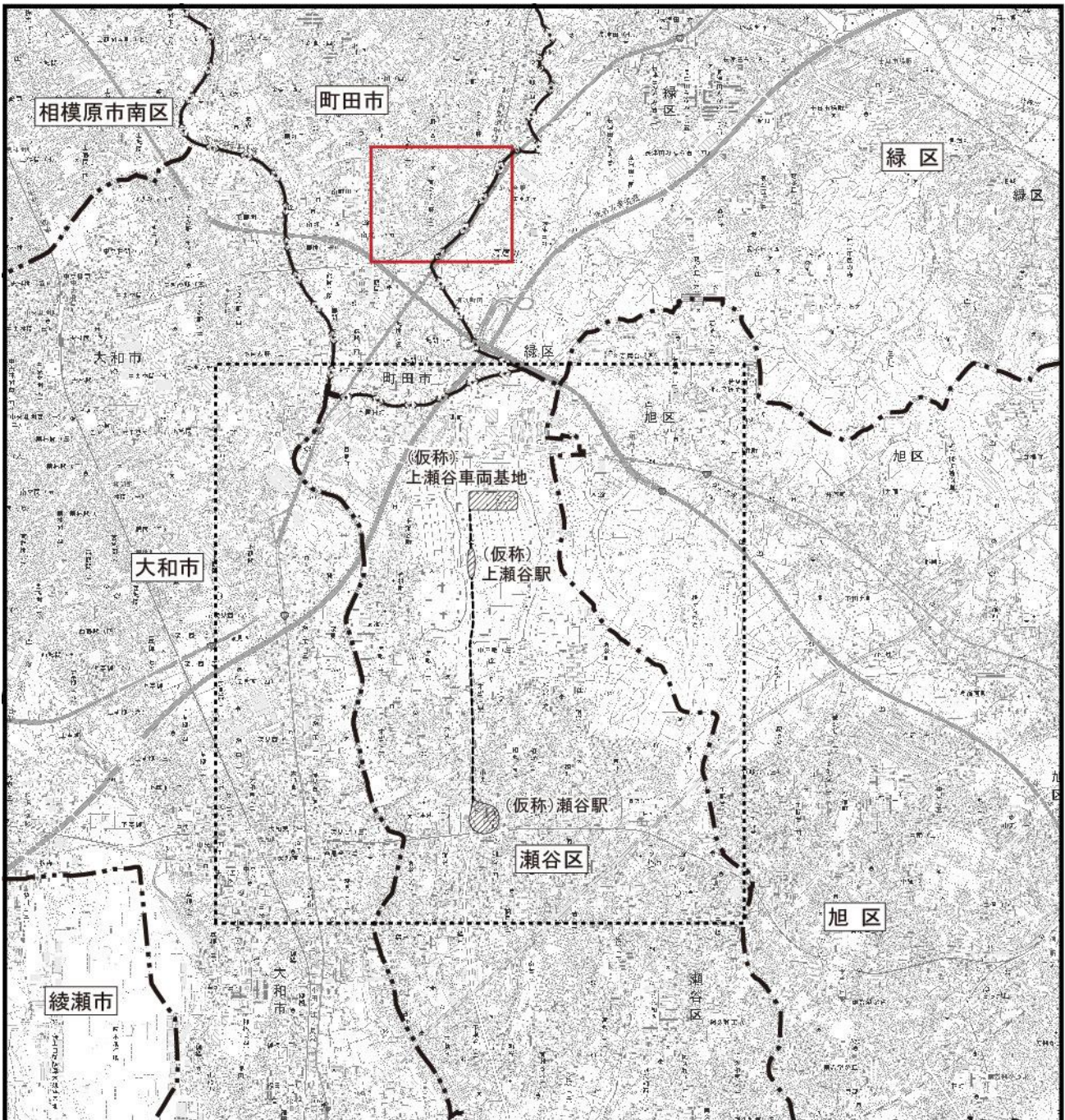
注2：選定基準は表3.2-18（p.3-58～59）参照。

表 3.2-19(10) 文献その他の資料による動物の重要な種（底生動物）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	新生腹足	タニシ	マルタニシ			VU	
2			オオタニシ			NT	
3		モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ			DD	
4	マルスダレガイ	シジミ	マシジミ			VU	
5	トンボ	カワトンボ	ハグロトンボ				要注
6		サナエトンボ	ヤマサナエ				要注
7	コウチュウ	ゲンゴロウ	ツブゲンゴロウ				EX
計	4目	6科	7種	0種	0種	4種	3種

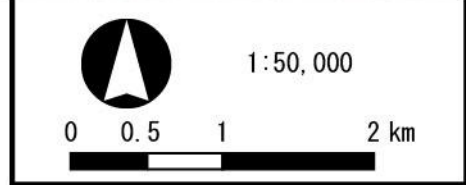
注1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 平成30年11月）に準拠しました。

注2：選定基準は表3.2-18（p.3-58～59）参照。



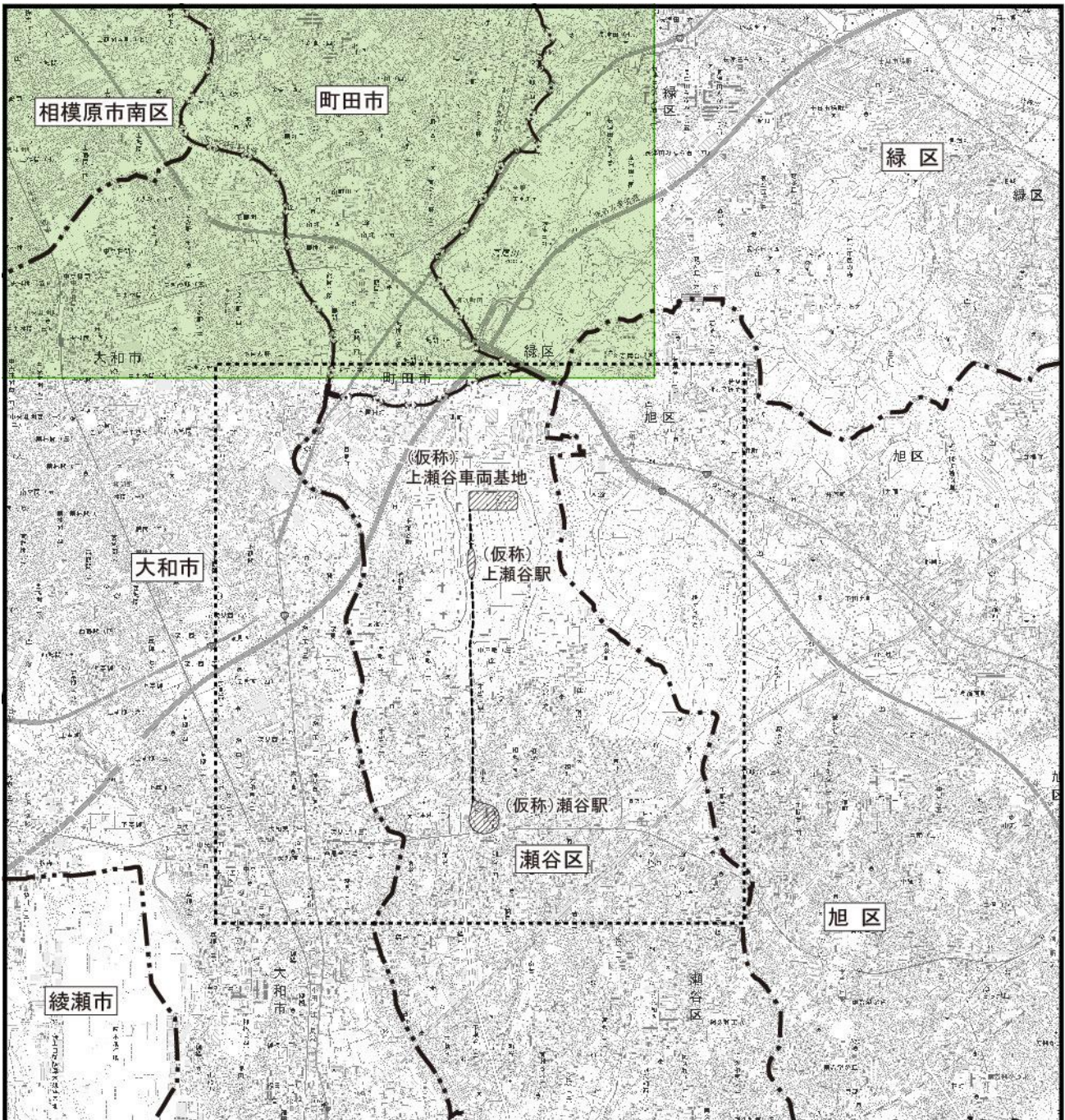
凡例

- 対象事業実施区域
- ◁▷— 都県界 ——— 市界 ——— 区界
- ⋯⋯ 調査区域
- コウモリ生息情報









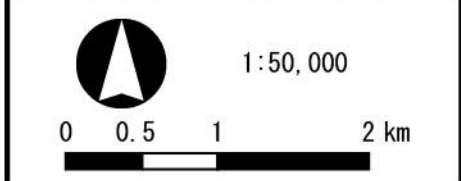
資料：「環境アセスメントデータベース (EADAS)」(環境省ホームページ 令和2年5月閲覧)

図 3.2-23 コウモリ洞の分布やコウモリ生息情報



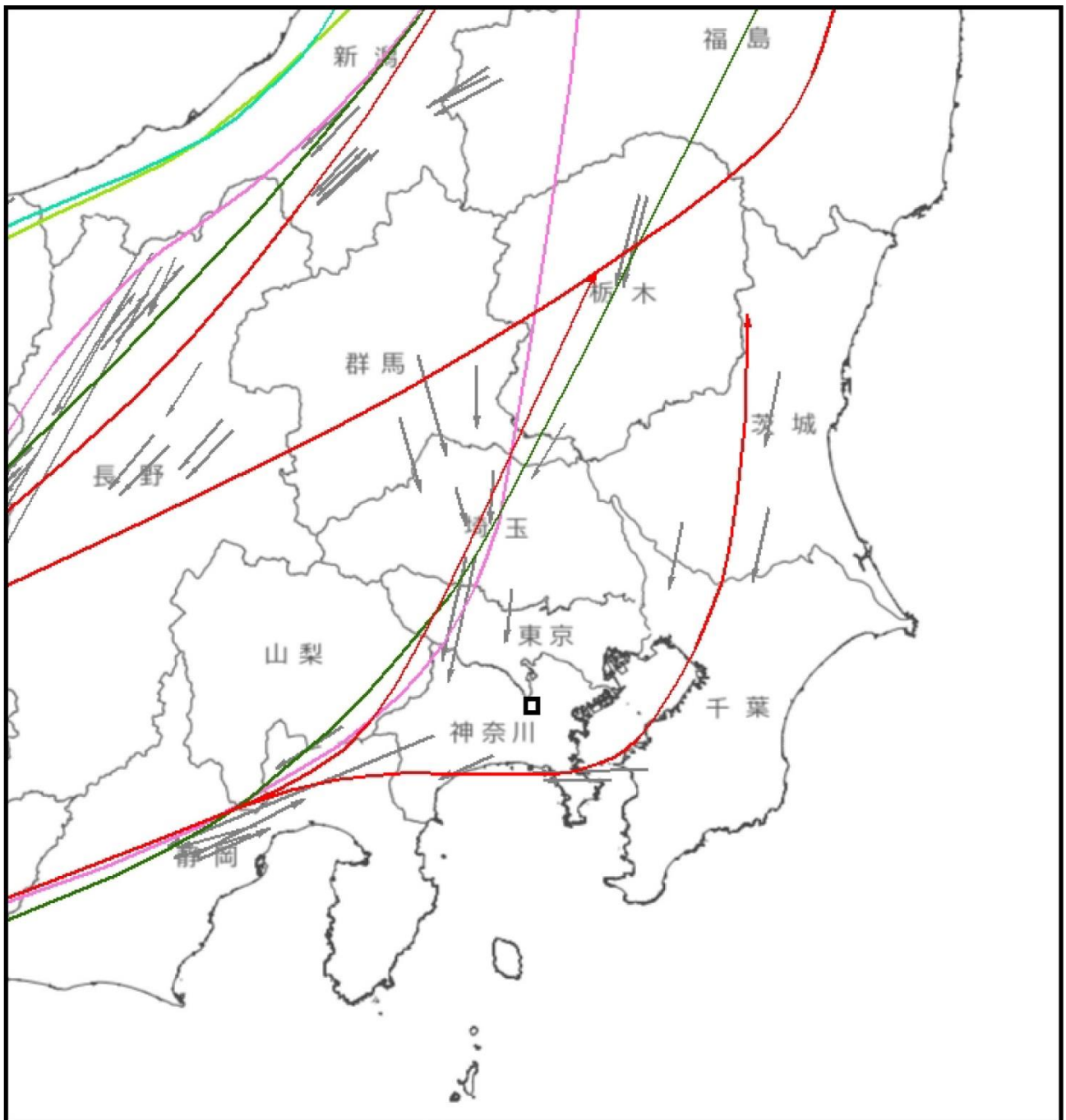
凡例

-  対象事業実施区域
-  都県界
-  市界
-  区界
-  調査区域
- イヌワシ生息分布
-  (一時滞在)



注1：クマタカ、オオワシ、オジロワシの生息分布や渡りをするタカ類集結地、ガン類・ハクチョウ類の主要な集結地は、図に示す範囲では確認されませんでした。  
 資料：「環境アセスメントデータベース (EADAS)」(環境省ホームページ 令和2年5月閲覧)

図 3.2-24 イヌワシ生息分布

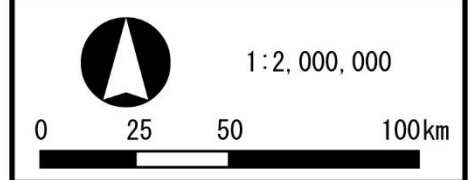


凡 例

□ 調査区域

日中の渡りルート

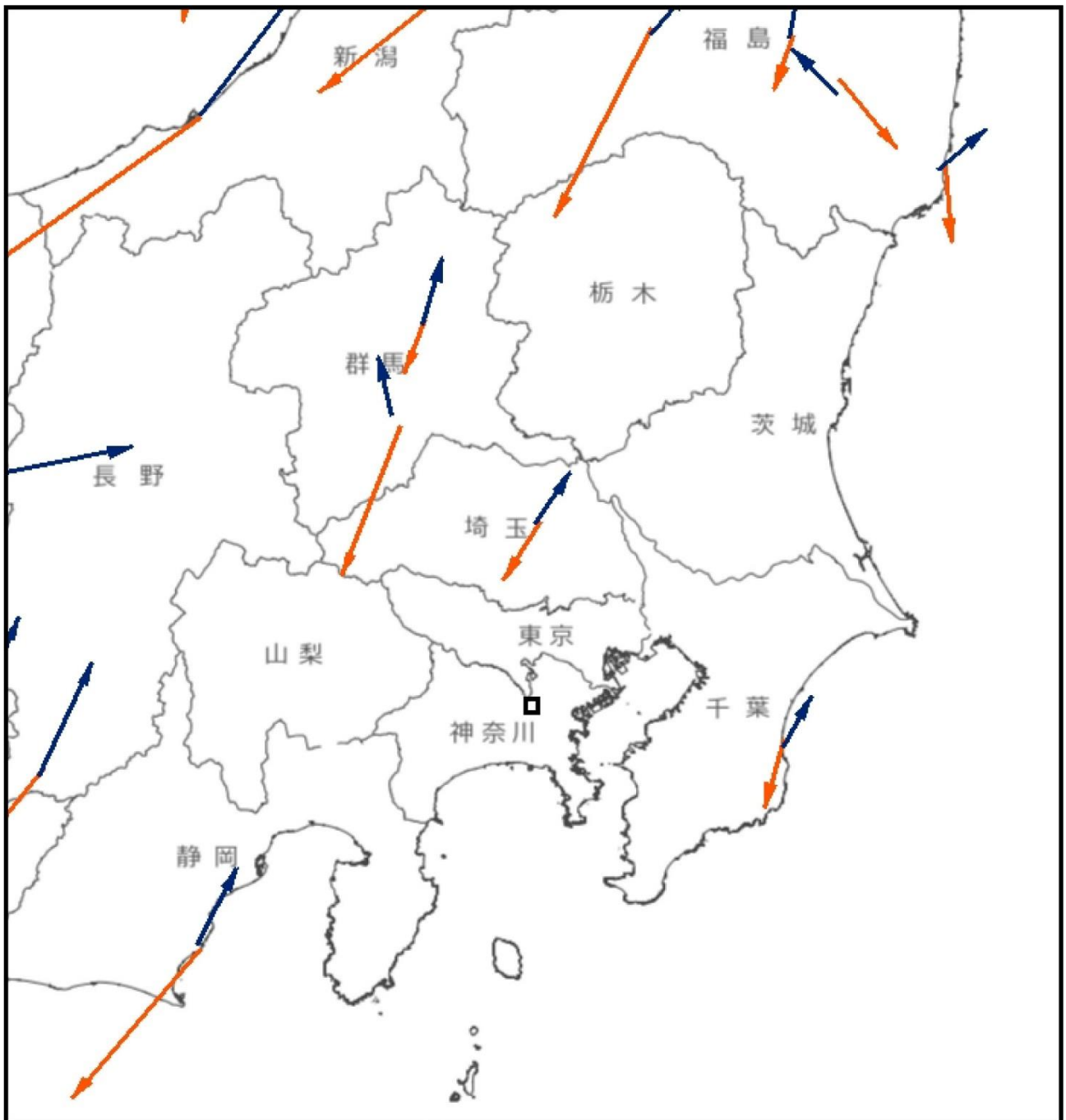
- |          |          |
|----------|----------|
| → ハクチョウ類 | → ノスリ    |
| → ガン類    | → ハクマ    |
| → サシバ    | → その他猛禽類 |



注1：オオハクチョウ、コハクチョウ、マガン、亜種オオヒシクイ、亜種ヒシクイ、ツル類、海ワシ類、アカハラダカの日中の渡りのルートは、図に示す範囲では確認されませんでした。

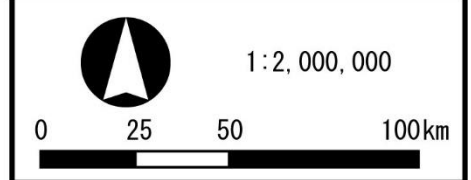
資料：「環境アセスメントデータベース（EADAS）」（環境省ホームページ 令和2年5月閲覧）

図 3.2-25 センシティビティマップにおける日中の渡りルート



凡 例

- 調査区域
- ➔ 夜間の渡りルート（春季）
- ➔ 夜間の渡りルート（秋季）



資料：「環境アセスメントデータベース（EADAS）」（環境省ホームページ 令和2年5月閲覧）

図 3.2-26 センシティブティマップにおける夜間の渡りルート



### ③ 動物の注目すべき生息地

動物の注目すべき生息地については、表 3. 2-20 に示す法令や規制等の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から選定しました。調査区域における動物の注目すべき生息地を表 3. 2-21 及び図 3. 2-27 に示します。調査区域には、「ホテル生息確認地域」及び「トンボ池等主なエコアップスポット（点のビオトープ）」が存在しています。

なお、調査区域には、環境省により「生物多様性保全上重要な里地里山」に指定されている地域が存在しており、対象事業実施区域の北区間が含まれています。これについては、「(3) 生態系の状況 ③重要な自然環境のまとまりの場」(p. 3-92~93) にて記述します。

表 3. 2-20(1) 注目すべき生息地の選定基準

選定基準		文献その他の資料	
①	「文化財保護法」(昭和25年5月法律第214号)、「神奈川県文化財保護条例」(昭和30年4月神奈川県条例第13号)、「東京都文化財保護条例」(昭和51年3月東京都条例第25号)、「横浜市文化財保護条例」(昭和62年12月横浜市条例53号)、「大和市文化財保護条例」(昭和38年10月大和市条例第25号)及び「町田市文化財保護条例」(昭和52年4月町田市条例第30号)に基づく天然記念物	国特：特別天然記念物 天然：天然記念物 県天：神奈川県天然記念物 都天：東京都天然記念物 横浜天：横浜市天然記念物 大和天：大和市天然記念物 町田天：町田市天然記念物	「国指定文化財等データベース」(文化庁ホームページ 令和2年5月閲覧)ほか各自治体ホームページ
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月法律第75号)及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成5年2月政令第17号)に基づく生息地等保護区	生息：生息地等保護区	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成5年2月政令第17号)
③	「自然環境保全法」(昭和47年6月法律第85号)	原生：原生自然環境保全地域 自然：自然環境保全地域	「自然環境保全地域」(環境省ホームページ 令和2年5月閲覧)
④	「神奈川県自然環境等保全条例」(昭和47年10月神奈川県条例第52号)	県自然：神奈川県自然環境保全地域	「神奈川県自然環境保全地域の指定状況」(神奈川県ホームページ 令和2年5月閲覧)
⑤	「東京における自然の保護と回復に関する条例」(平成12年12月東京都条例216号)	都自然：東京都自然環境保全地域	「保全地域の指定状況一覧」(東京都環境局ホームページ 令和2年5月閲覧)
⑥	「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(平成4年9月条約第7号)	自遺：自然遺産	「日本の世界自然遺産」(環境省ホームページ 令和2年5月閲覧)

表 3.2-20(2) 注目すべき生息地の選定基準

	選定基準	文献その他の資料	
⑦	<p>「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」(ラムサール条約)(昭和55年9月条約第28号)</p>	<p>基準1: 特定の生物地理区を代表するタイプの湿地、又は希少なタイプの湿地            基準2: 絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地            基準3: 生物地理区における生物多様性の維持に重要な動植物を支えている湿地            基準4: 動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地。または悪条件の期間中に動植物の避難場所となる湿地            基準5: 定期的に2万羽以上の水鳥を支える湿地            基準6: 水鳥の1種または1亜種の個体群で、個体数の1%以上を定期的に支えている湿地            基準7: 固有な魚類の亜種、種、科の相当な割合を支えている湿地。また湿地というものの価値を代表するような、魚類の生活史の諸段階や、種間相互作用、個体群を支え、それによって世界の生物多様性に貢献するような湿地            基準8: 魚類の食物源、産卵場、稚魚の生息場として重要な湿地。あるいは湿地内外における漁業資源の重要な回遊経路となっている湿地            基準9: 湿地に依存する鳥類に分類されない動物の種及び亜種の個体群で、その個体群の1%を定期的に支えている湿地</p>	<p>「日本のラムサール条約湿地—豊かな自然・多様な湿地の保全と賢明な利用—」(環境省 平成25年)</p>
⑧	<p>「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(平成14年7月法律第88号)</p>	<p>都道府県指定鳥獣保護区            国指定鳥獣保護区            特: 特別保護地区            特指: 特別保護指定区域</p>	<p>「令和元年度神奈川県鳥獣保護区等位置図」(神奈川県ホームページ 令和2年5月閲覧)及び「令和元年度東京都鳥獣保護区等位置図」(東京都ホームページ 令和2年5月閲覧)</p>
⑨	<p>「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」(環境省 平成28年4月)</p>	<p>基準1: 湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合            基準2: 希少種、固有種等が生育・生息している場合            基準3: 多様な生物相を有している場合            基準4: 特定の種の個体群のうち、相当数の割合の個体数が生息する場合            基準5: 生物の生活史の中で不可欠な地域(採餌場、産卵場等)である場合</p>	<p>「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」(環境省ホームページ 令和2年5月閲覧)</p>

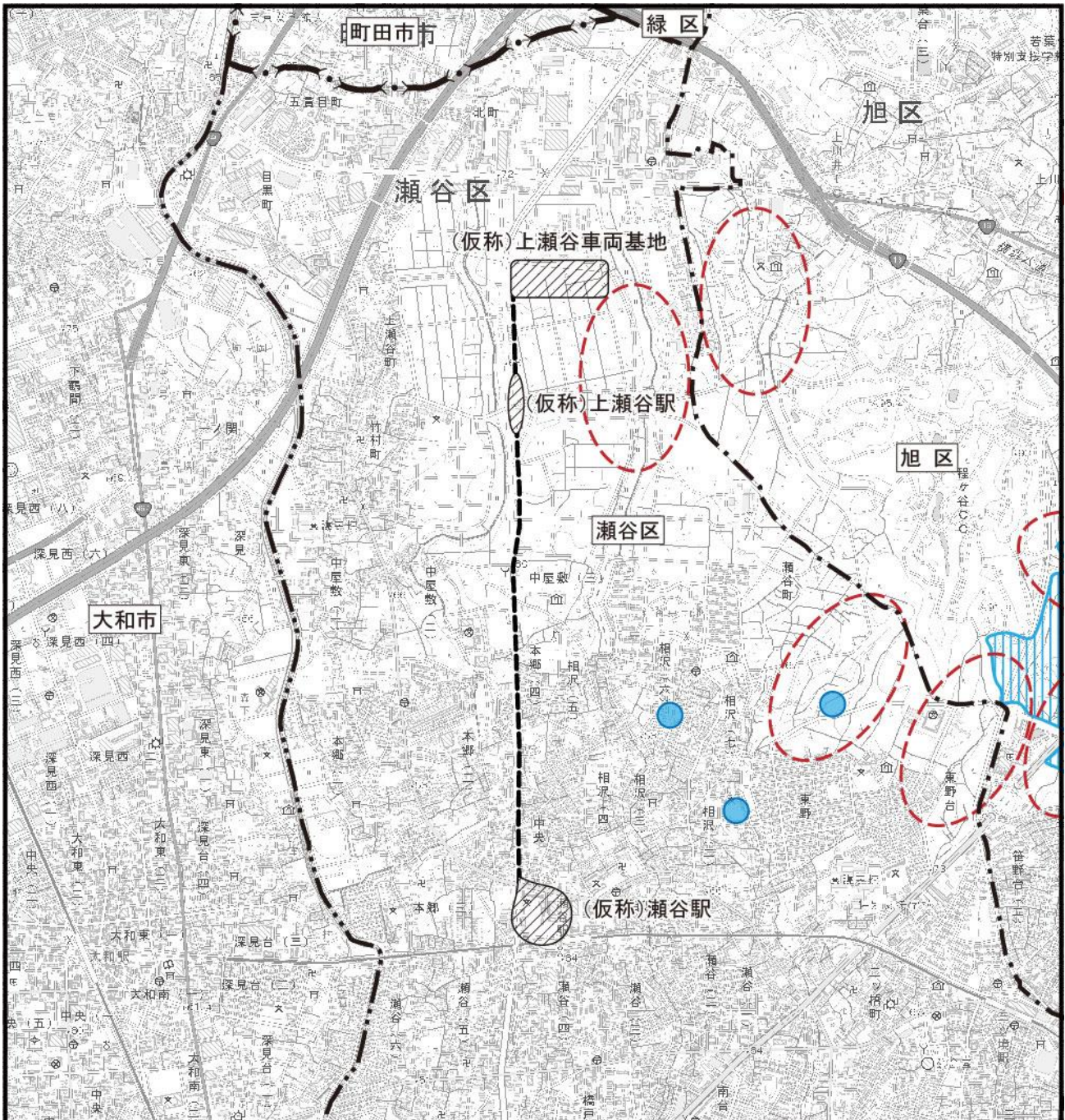
表 3.2-20(3) 注目すべき生息地の選定基準

選定基準		文献その他の資料
⑩	「重要野鳥生息地 (IBA)」(日本野鳥の会ホームページ 令和2年5月閲覧)	<p>A1:世界的に絶滅が危惧される種、または全世界で保護の必要がある種が、定期的・恒常的に多数生息している生息地</p> <p>A2:生息地域限定種 (Restricted-range species) が相当数生息するか、生息している可能性がある生息地</p> <p>A3:ある1種の鳥類の分布域すべてもしくは大半が1つのバイオーム*に含まれている場合で、そのような特徴をもつ鳥類複数種が混在して生息する生息地、もしくはその可能性がある生息地</p> <p>*バイオーム:それぞれの環境に生きている生物全体</p> <p>A4 i:群れを作る水鳥の生物地理的個体群の1%以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト</p> <p>A4 ii:群れを作る海鳥または陸鳥の世界の個体数の1%以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト</p> <p>A4 iii:1種以上で2万羽以上の水鳥、または1万つがい以上の海鳥が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト</p> <p>A4 iv:渡りの隘路にあたる場所で、定められた閾値を超える渡り鳥が定期的に利用するボトルネックサイト</p>
⑪	「生物多様性の保全の鍵になる重要な地域 (KBA)」(コンサベーション・インターナショナル・ジャパンホームページ 令和2年5月閲覧)	<p>危機性: IUCN のレッドリストの地域絶滅危惧種 (CR、EN、VU) に分類された種が生息/生育する</p> <p>非代替性: a) 限られた範囲にのみ分布している種 (RR) が生息/生育する、b) 広い範囲に分布するが特定の場所に集中している種が生息/生育する、c) 世界的にみて個体が一時的に集中する重要な場所、d) 世界的にみて顕著な個体の繁殖地、e) バイオリージョンに限定される種群が生息/生育する</p>
⑫	「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」(横浜市環境保全局環境影響審査課 平成13年3月改定)	<p>「Key Biodiversity Area 生物多様性の保全の鍵になる重要な地域」(コンサベーション・インターナショナル・ジャパンホームページ 令和2年5月閲覧)</p> <p>「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」(横浜市環境保全局環境影響審査課 平成13年3月改定)</p>







表 3.2-21 動物の注目すべき生息地

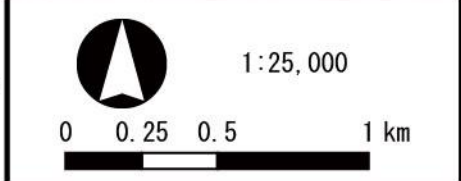
選定基準		区分
⑫	「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」	ホタル生息確認地域
		トンボ池等主なエコアップスポット(点のビオトープ)

資料:「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」(横浜市環境保全局環境影響審査課 平成13年3月改定)



凡例

- 
 対象事業実施区域
- 
 都県界
- 
 市界
- 
 区界
- 
 ホテル生息確認地域
- 
 トンボ池等主なエコアップスポット  
(点のピオトープ)



資料：「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」（横浜市環境保全局環境影響審査課 平成13年3月改定）

図 3.2-27 動物の注目すべき生息地

## (2) 植物の生育及び植生の状況

植物相及び植生状況は、調査区域及びその周辺を対象に、文献その他の資料により整理しました。

文献その他の資料による調査範囲は、表 3.2-22 のとおりです。

表 3.2-22 文献その他の資料による調査範囲（植物）

文献その他の資料	調査範囲
「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館 平成 18 年 7 月）	横浜市瀬谷区、旭区、緑区、大和市で確認された種を対象としました。
「大和市史 8（上）別編自然」（大和市 平成 8 年 9 月）	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「横浜の川と海の生物（第 14 報・河川編）」（横浜市環境科学研究所 平成 28 年 3 月）	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「大和市の植物」（大和市教育委員会 平成 3 年 3 月）	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。

### ① 植物相の概要

調査区域及びその周辺の植物相の概要を、表 3.2-23 のとおり整理しました。維管束植物（シダ植物及び種子植物）953 種が確認されています。

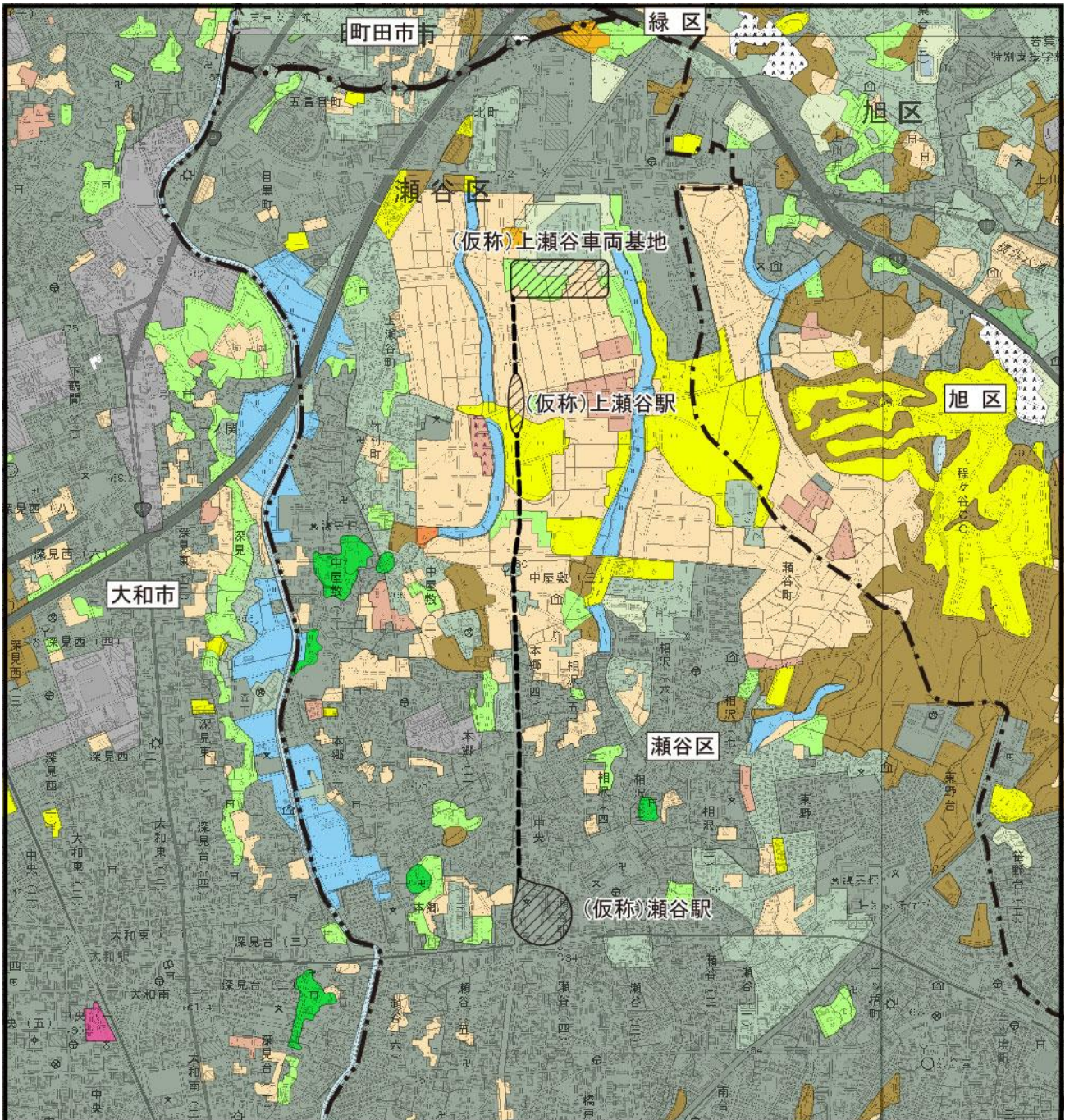
表 3.2-23 文献により確認された植物

分類	主な確認種		
シダ植物	クラマゴケ、ミズニラ、スギナ、オオハナワラビ、ゼンマイ、キジノオシダ、ウラジロ、カニクサ、イヌシダ、ワラビ、ミズワラビ、イノモトソウ、トラノオシダ、コモチシダ、リョウメンシダ、ヤブソテツ、ベニシダ、イノデ、ハリガネワラビ、ヒメシダ、イヌワラビ、ノキシノブ、サンショウモ等 (80 種)		
種子植物	裸子植物		
	イチヨウ、モミ、アカマツ、クロマツ、スギ、コウヨウザン、ヒノキ、サワラ、イヌガヤ、カヤ (10 種)		
	被子植物	双子葉植物	オニグルミ、シダレヤナギ、ケヤマハンノキ、イヌシデ、スダジイ、クヌギ、シラカシ、コナラ、ケヤキ、カナムグラ、ウワバミソウ、カナビキソウ、ヤドリギ、ミズヒキ、ギシギシ、オシロイバナ、スベリヒユ、コハコベ、アカザ、ヒカゲイノコズチ、ホオノキ、サネカズラ、クスノキ、フサザクラ、カツラ、ニリンソウ、メギ、アケビ、ドクダミ、ヒトリシズカ、ウマノスズクサ、ヤブツバキ、オトギリソウ、ナズナ、ツルマンネングサ、ヤマアジサイ、ヤマザクラ、ネムノキ、ヤブマメ、ホドイモ、サイカチ、クズ、ハリエンジュ、シロツメクサ、カタバミ、ゲンノショウコ、エノキグサ、トウダイグサ、ユズリハ、ニガキ、センダン、ヒメハギ、ヌルデ、イタヤカエデ、ムクロジ、アワブキ、ホウセンカ、モチノキ、ツルウメモドキ、ミツバウツギ、ナツメ、ヤブガラシ、カラスノゴマ、ゼニバアオイ、アオギリ、アキグミ、イイギリ、タチツボスミレ、アレチウリ、ミソハギ、オオマツヨイグサ、アオキ、ヤマウコギ、セリモドキ等 (410 種)
		合弁花類	ギンリョウソウ、ナツハゼ、ヤブコウジ、コナスビ、カキノキ、エゴノキ、トウネズミモチ、フデリンドウ、ガガイモ、ヤエムグラ、ヒルガオ、ホタルカズラ、クサギ、アキノタムラソウ、ホオズキ、ワルナスビ、シソクサ、オオイヌノフグリ、キリ、ハグロソウ、ナンバンギセル、ハエドクソウ、ヘラオオパコ、スイカズラ、レンプクソウ、オミナエシ、ツリガネニンジン、ヨモギ、アレチノギク、アキノキリンソウ、ヒメジョオン、セイヨウタンポポ、カントウタンポポ、オオオナモミ、オニタビラコ等 (225 種)
単子葉植物	ヘラオモダカ、オオカナダモ、リュウノヒゲモ、オオバギボウシ、ヒガンバナ、オニドコロ、コナギ、ヒオウギ、イ、ツユクサ、ヌカボ、スズメノテッポウ、メリケンカルカヤ、メヒシバ、チガヤ、ススキ、ツルヨシ、モウソウチク、シュロ、ウラシマソウ、アオウキクサ、ヒメガマ、カサスゲ、ピロードスゲ、ヒメクグ、タマガヤツリ、メリケンガヤツリ、ミョウガ、エビネ、ギンラン等 (228 種)		
合計	953 種		

## ② 植生の概要

調査区域における現存植生図は図 3. 2-28 に、潜在自然植生図は図 3. 2-29 に示すとおりです。「潜在自然植生」とは、現存植生に加えられている人間の影響を一切停止した場合に、理論的にその立地に成立すると判定される自然植生を図化したものです。

対象事業実施区域の現存植生は、北区間は畑雑草群落の他に、小規模な範囲でクヌギーコナラ群集、ゴルフ場・芝地、緑の多い住宅地、路傍・空地雑草群落が分布しており、南区間は市街地の他に小規模な範囲で畑雑草群落、緑の多い住宅地が分布しています。潜在自然植生としては、シラカシ群集・ケヤキ亜群集、シラカシ群集・典型亜群集及びハンノキ群落、開放水域が成立するとされています。

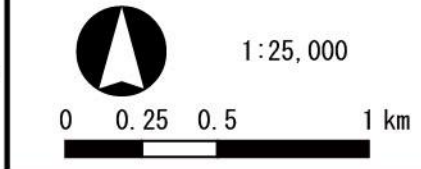


凡例

- - - 対象事業実施区域    ◁・▷ 都県界    - - - 市界    - - - 区界

- シラカシ群集
- シラカシ屋敷林
- コナラ群落 (VII)
- クヌギ・コナラ群集
- 低木群落
- チガヤーススキ群落
- スギ・ヒノキ・サワラ植林
- 竹林

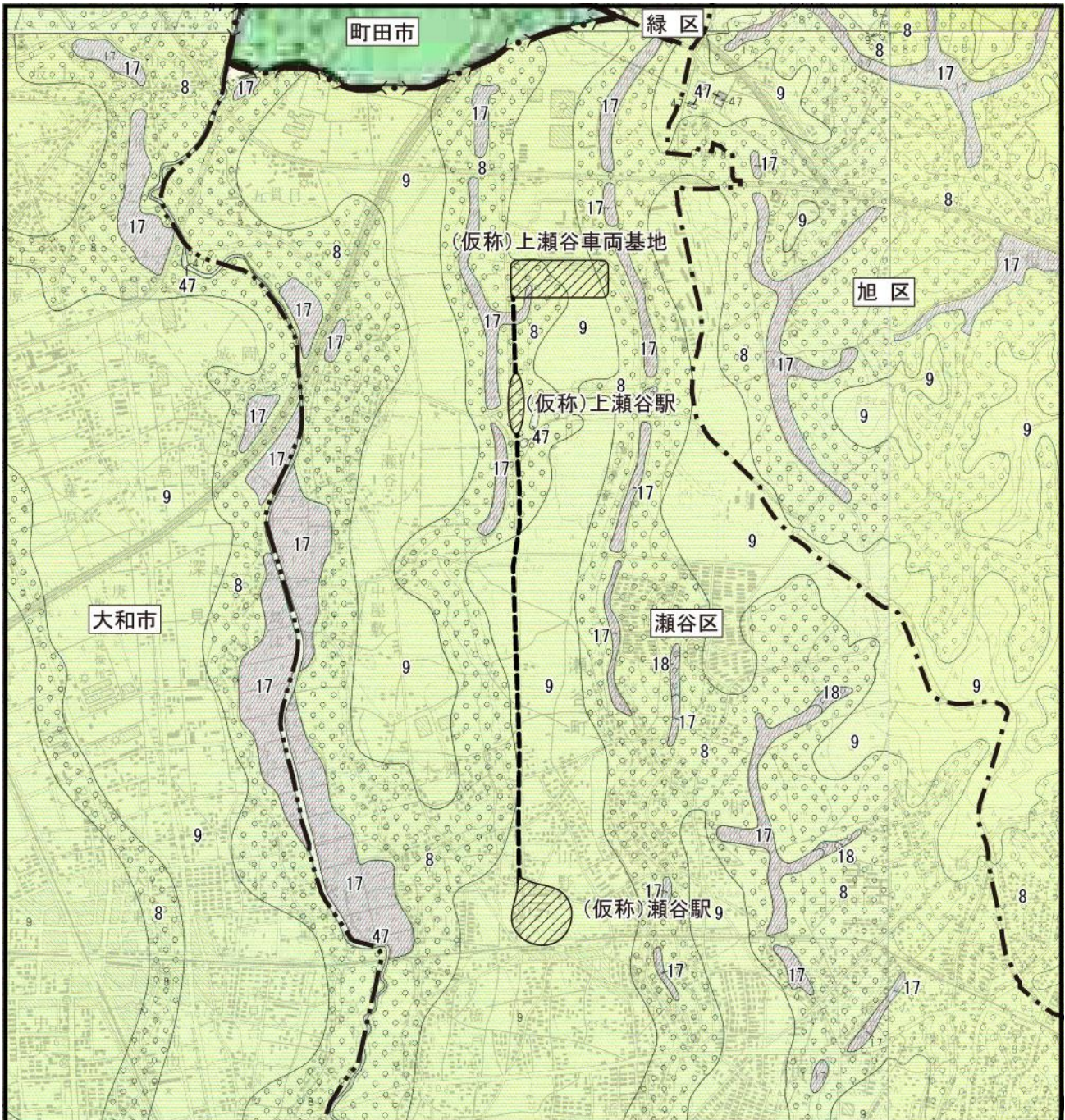
- ゴルフ場・芝地
- 牧草地
- 路傍・空地雑草群落
- 果樹園
- 常緑果樹園
- 畑雑草群落
- 水田雑草群落
- 市街地



- 緑の多い住宅地
- 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
- 工場地帯
- 造成地
- 開放水域
- その他植林

資料：「第6回～第7回自然環境保全基礎調査」  
 (環境省 自然環境局 生物多様性センターホームページ 令和2年5月閲覧)

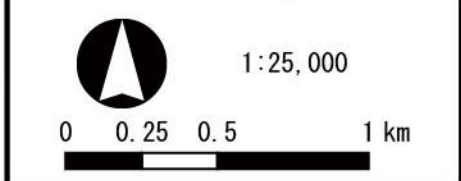
図 3.2-28 現存植生図



凡例

対象事業実施区域 
 都県界 
 市界 
 区界

- |  |               |  |            |
|--|---------------|--|------------|
|  | シラカシ群集・ケヤキ亜群集 |  | ハンノキ群落     |
|  | シラカシ群集・典型亜群集  |  | クヌギ-ハンノキ群落 |
|  |               |  | 開放水域       |



資料：「神奈川県潜在自然植生図」（神奈川県教育委員会 昭和50年3月）  
 「東京都潜在自然植生図」（東京都環境局ホームページ 令和2年5月閲覧）

図 3.2-29 潜在自然植生図